



地理の写真館

メキシコ中央高原の地方都市グアナファトの歴史的景観 —歴史地区と銀鉱跡群の世界文化遺産都市の断面—

世界文化遺産都市・大学都市・メキシコ独立戦争の舞台・世界的な旧銀鉱山都市として知られるグアナファト（市域人口157,965、2005年）は、首都メキシコシティから北西約370km、標高2017mに位置するメキシコ中央高原にある。1554年に町として開かれ、1741年に市制が施行された。私が歴史都市グアナファトを訪ねたのは、2007年8月である。

独立戦争の英雄・鉱夫ビビラ像が建つ丘から眺望する市街地の景観は、一幅の絵のように美しい(写真①)。高原の盆地に広がる市街地は、メキシコ独立戦争激戦の舞台であり、そのモニュメントも数多い。市街地全体に敷かれた石畳、城郭のような景観、コロニアル建造物の数々など、どこか垢抜けした歴史的景観が色濃く漂うグアナファトは、国際的な観光都市としても著名である。また、グアナファト大学(写真②)を有する代表的な大学都市でもある。グアナファト大学は、イエズス会が1732年に設立し1955年に州立大学となった。長い伝統を有するその石段と学舎の建造物は観光スポットにもなっている。私は、ユニオン広場、国際芸術祭のメイン舞台となるフェレス劇場、サンディエゴ聖堂、州立博物館、イタル

ゴ市場、グアナファト大学などの歴史地区の都市景観(写真③)を見学した。市民の台所であるイタルゴ市場は、独立戦争の開始から100年を記念として、1910年に駅舎として建設された由緒ある建造物を使用している。

また、中心部から北西約5kmの丘にあり、1760年に採掘されたバレンシアの銀鉱山の坑道跡(写真④)を訪ねた。グアナファト発展の背景には、スペインのメキシコ植民地経営の経済的基盤である銀鉱山の巨大な富があった。1550年スペイン人によって銀鉱脈が発見され、16世紀半ばには世界屈指の豊かな町になったと記されている。メキシコ高原の銀生産量は、17～18世紀には世界の過半を占め、その中心がグアナファトであった。首都メキシコシティを目指し、銀を運ぶキャラバンの道は、「銀の道」とも「王の道」とも呼ばれた。

盆地地形の市街地は、複雑な細い道路と地下街路が多い。現在、地下街路の多くは、銀鉱山の坑道(排水溝)跡を整備して道路として利用されている。グアナファトの歴史地区と周辺の銀鉱跡群は、1988年に世界遺産に登録された。(中部大学国際関係学部非常勤講師 原 眞一)

写・真・募・集

このコーナーの「カラー写真」を募集しています。海外巡検などで撮影された地理的写真を、資料編集部「地理・地図資料」係までお送りください。